22301 国語_1_302 個別_論理の展開を整える

（学年）第３学年，（教科）国語科

個別学習

（単元）論理の展開を整える

（本時のねらい）

これまで，「具体と抽象」「意見と根拠」といった関係について理解を深め，互いの考えを伝え合う上では，これらの関係が大切であるということを学習してきた。文章の中で「具体と抽象」「意見と根拠」の関係を読み取ること，把握することはできるが，それらの関係に留意し，自分の考えを表現することは未だ難しい。

本時では，「具体と抽象」「意見と根拠」という既習した内容を振り返りながら，これらの点に着目し，クラスメイトの作文が目的や意図に応じて書かれているかを考える。また，クラスメイトの助言から論理の展開や内容を再度吟味し，文章を整える力を身につける。そして，読み手としてクラスメイトに助言する活動を通して，自分の作文を客観的な視点から，目的や意図に応じた表現になっているかを確かめる。

（ＩＣＴ活用方法）

グループウェアの文書作成ソフトを使った（また，クラス共有のため学習支援ソフトも利用した）。原稿用紙設定した文書作成ソフト文書を用い，作文を書き，校閲機能を使いコメントをつけた。従来は，変更前を確認することや，1 枚の紙にコメントと作文を収めることが難しかったが，文書作成ソフトを利用することでそれらが容易になった。また，変更履歴が残ることにより，自分の表現の変更前と後がわかり，吟味して文章を整えることができるようになった。

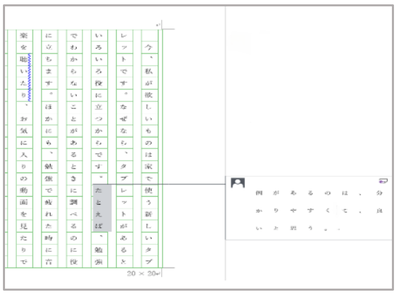
（本時の展開）

| 時間 | 学習活動 | 指導事項 | ICT 活用方法 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 導入<br>１０分 | ・前時の復習と本時の確認をする。 | | ・電子黒板を使って文章を例示する。 | |
| 展開<br>３５分 | 《活動 1》<br>・班のメンバーの作文に良かった点や改善点をコメントする。また，文法的な誤りや表現で直すべき箇所を訂正する。 | 《活動 1》<br>・「具体と抽象」「意見と根拠」や課題に沿っているか等，コメントする際の着目点を確認し，板書する。<br>・コメントする際に，作文全体にコメントをつけるのではなく， | 《活動 1》<br>・電子黒板を使って，文書作成ソフトの画面を提示する。<br>・学習支援ソフトのフォルダから班のメンバーの文書作成ソフトファイルを選択し，校閲機能を使ってコメントする。コメ | 《活動 1》<br>・文書作成ソフトファイルはアプリで開く。<br>・すべての変更履歴／コメントが見えるようにする。コメント後は，必ず上書き |

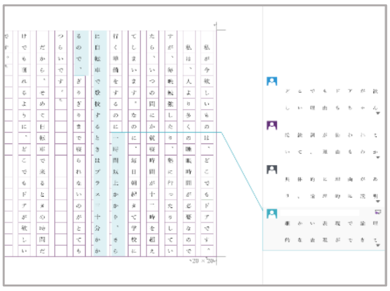
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 《活動 2》<br>・コメントや訂正箇所を確認し，それらをもとに文章を整える。 | 具体的な箇所を示してコメントするよう促す。<br>《活動 2》<br>・コメントに従うのではなく，必ず自分で再度吟味するよう促す。 | ントする際，変更履歴の記録を残す。<br>《活動 2》<br>・訂正に問題がない場合は，変更箇所の承諾をする。 | 保存をする。<br>《活動 2》<br>・最初に自分が書いた文章等と比較ができるよう，元のファイルに上書き保存をしないようにする。 |
| まとめ<br>５分 | ・完成した作文を提出する。 | ・提出方法を確認する。 | ・学習支援ソフトの提出フォルダに文書作成ソフトファイルをアップロードする。 | |

（授業の様子）

生徒の様子



生徒のコメント①



生徒のコメント②

（生徒の反応と課題，改善を要する点）

コメントをする際，良かった・わかりやすかったというようなただの感想にならないよう，具体的に何がよかったかまでしっかり書けていた。また，クラスメイト（＝読み手）のコメントがあることで，読み手に伝わるようにどうすればよいか考え，推敲することができていた。漠然とした「読み手」が，コメントを受けることで明確化され，「読み手」を意識して文章を書くということができたのではないかと考える。

しかし，作文を書き直すことでおわったため，具体的に自分の文章・表現が推敲する上でどう変化したかがわかりづらかった。そのため，参考になったコメントは何か，どのような点を改善したか等について言葉として残し，まとめることで，自分の考えを表現する際に必要なものに気づくことができるようにしたい。また，校閲機能は数回しか活用した

ことがないため，不慣れな生徒は活動をはじめるのにとまどった。本時では，電子黒板での提示のみであったが，操作手順に関する資料を配布する等，活動開始時の説明について改善する必要がある。